

# トロンボーン（金管楽器）における歯の役目

～上前歯2本による音色・音域の変化～

= 自分を知ることによって効率良い練習方法が分かる =

最初は質問です。皆さんはどちらに近いですか？

どちらが管楽器奏者に向いていると思いますか。その理由も考えてください。

## 1 顔幅（歯型）の違い

広い



狭い



## 2 上の前歯 2 本の長さ

揃っている



中央の 2 本が長い

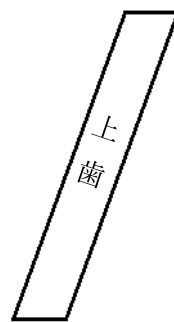


## 3 上の前歯

前に出ていない

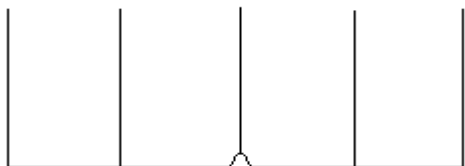


前に出ている



## 4 隙 間

隙間が無い



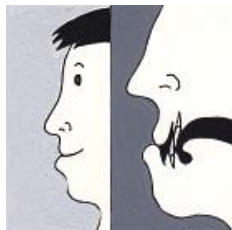
隙間がある



## 5 前歯上下のかみ合わせ



歯が前 (一般)



上歯が後ろ

これらの条件は音を出すために大きくかかわります。

私は上下のかみ合わせ以外はすべて右の条件でした。

(音を出すための説明は平面でしか書けませんが、立体で考えてください。)

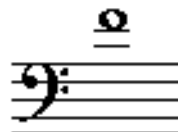
20年以上にわたる実験開始です！

(どんな条件でも上手になると考えています。)

管楽器を吹くために、上前歯2本が大きく影響する事を、歯科医根本敏雄博士は多くの演奏家の歯を治療することで気が付き、この2本の隙間をメディアンスペースと命名しました。

私の状態

無理なく出せる高い音は  
F音まで。



教則本通りの奏法で音を出すと、長い前歯に息が当たり気持ちの悪い振動を前歯が起こした。

音を出すためには、唇の両サイドを下げ、教則本に「これはいけません。」と書かれている、あごのすぐ上に梅干状の凹みができる方法でしか吹くことができなかつた。

今回は前歯の長い2本を削った結果です。